

高野山真言宗
紫雲山菩提院
西光寺

四国三十三観音霊場
第2番札所
百八観音霊場
第41番札所



〒771-1702
徳島県阿波市
阿波町稲荷53
TEL 0883-35-2784
ホームページ
<https://saikouji.tokushima.jp>
発行所 西光寺
発行人 澤善弘



よく見ると、雲も龍の姿に見えます。

撮影 大原 佐藤有里

虹の古字



「虹一にじ」古くは天に住む龍の姿であると考えられていた。虹が現れるのは、龍が天から降って谷川の水を飲むためであるとされ、たいへん縁起のよい現象である。また、陽の気(赤、橙、黄、緑、青、紺、紫)を映すものとも云う。

総代長就任挨拶



総代長 安友 勝明

西光寺の檀家の皆さまにおかれましては、新型コロナウイルス等、厳しい社会情勢の中、ご健勝でがんばっていられることとご拝察いたします。

この度、長年に亘り西光寺護持会のために多大なるご尽力をいただいた中井総代長が高齢と云うことで辞任の申し出がありました。総代会で、まだまだお元気でご聡明なので慰留いただけますようお願いしたのですが、辞意の意思固く辞任されました。後任に、囂らずも私にご指名いただき、お引き受けすることになりました。

私は、中井総代長、歴代の総代長のような学識や教養、地位もございません。浅学非才、平凡な者でございます。至らぬ点は、皆さまのご指導とご協力をいただき、精一杯の努力をしたいと思います。

職務を全うするためには、任職をはじめ総代、役員、檀信徒の皆さまのご協力なくては出来ません。檀家の減少をはじめとして、非常に厳しい状況の中、護持会が健全に運営できますよう尚一層のご指導ご協力を重ねてお願いし、皆様のご健勝ご多幸をご祈念申しあげご挨拶いたします。



西光寺護持会

役員



順不同
敬称略

名誉総代 中井邦武

総代長 安友勝明

総代 川人芳正

川人秀世

会計

川人秀世

世話人

板東久志

新森秀明

小山恒夫

藤川善昭

金井 功

岩城義人

枝澤安司

川人永治

細川敬雄

森友卓司

楠本福一

田中照明

川人義朗

坂東忠一

田中敏文

板東恭生

原田晃二

板東章智

原田忠幸

川人建介

板東夏弥

須見友一

中井和宏

中井計延

岡田俊武

平島義弘

枝澤利幸

川人 忠

森友利雄

渡部浩之

安友喜美子

川人良亘

坂東博明

香川保雄

佐藤有里

小山政昭

小山忠行

挨拶



名誉総代 中井 邦武

総代長退任

菩提寺であります西光寺は、一三〇〇年の歴史を刻んでいる名刹であります。その歴史の一ページにも足りませんが、総代十六年、その内総代長四年、寺の護持、発展に係わることが出来ましたことを、誇りに思っています。

歌など創設されました。こうした住職の取り組みに、私は、敬意を表し信頼申しあげています。

日々前進を続ける充実した寺で、長い間、総代・総代長として勤めさせていただき、有り難うございました。

この度、私は、令和元年に既に卒寿（九十歳）を迎えておりました。人生の節目に総代長の辞退を、住職に申しでていただきました。慰留されましたがご理解をいただき退任することになりました。

勤めさせていただいた長い間、皆様からのご指導ご支援に改めて感謝申しあげます。住職からはそのときどきに仏教の真髓などご教授いただき多くのことが学べました。厚くお礼申しあげます。

最後に皆様のご多幸をお祈り申しあげ、退任のあいさついたします。

名誉総代就任

令和二年に入り、新型コロナウイルスの感染が広がりに、日常生活など大きく様変わりし戸惑いを覚える今日このごろでございます。

総代長、総代を退任いたしましたものの、住職より、元気な間は、寺の運営、寺の今後の在り方など、名誉総代として、ご助力をとのお言葉をいただきました。

身に余る光栄であります。しかしながら、皆様のご期待に添えるか不安もあります。寺のためにも少しでもお役に立つよう努めさせていただきます。と思っています。

どうか今まで以上に、何かにつけ、ご指導賜りますようお願い申し上げます。



役員の方々は、檀信徒代表としてお寺の護持のためにご尽力くださっております。

主な役割は、お寺の方針を話し合う、ご本尊さまの守護御札、ご法事の案内をお届けする、護持会お初穂を集めること等お寺と檀信徒の皆さまのお世話を務めてくださっております。





高野山真言宗

参与会員

30年	佐藤 一男	入会順
14年	中井 邦武	敬称略
14年	川人 秀世	
14年	川人 建介	
14年	檜原 浩二	
14年	山岸 惠美子	
14年	山岸 敬治	
(会員引継)		
11年	山川 好信	
8年	山川 惠美子	
8年	中井 和代	
8年	芝 千鶴子	
7年	木村 拓司	
5年	山川 太郎	
4年	安友 勝明	
3年	佐藤 有里	
ご逝去	板東 章智	
ご逝去	池本喜代子	

参与会に入会 しませんか？

高野山真言宗参与会は弘法大師のみ教えを守り弘め、お大師さまの衆生救済のご誓願にお応えすることを目的とする信仰団体です。

参与会はいわば、弘法大師空海さまをお慕いするファンクラブです。

参与会に入会すると、『月刊高野山』という冊子本(ご法話や高野山の行事などの情報誌)が毎月届きます。また、高野山参拝時の優待など、他にも会員特典を受けることができます。

西光寺では、年に1度定例会を開催し、親睦を深めております。

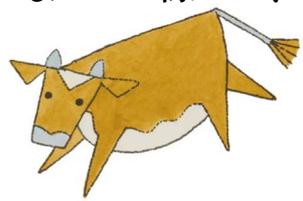


誰とも現代の高野聖

令和三(二〇二二)年 年忌繰出表

ご法事(回忌法会)	ご逝去の年
一 周忌	令和 二年
三 回忌	令和 元年
七 回忌	平成 二十七年
十三 回忌	平成 二十一年
十七 回忌	平成 十七年
二十五 回忌	平成 九年
三十三 回忌	平成 元年
五十 回忌	昭和 四十七年
六十一 回忌	昭和 三十六年

お仏壇のお位牌をお調べください。
ご法事をお申し込まれる際
土日祝は大変混みあいます。
一ヶ月程前までに打合せの
ご連絡をお寺までくださりま
すようお願い申し上げます。



金剛頂瑜伽經大會指歸卷
 特進試鴻臚卿大興善寺三藏沙門
 大廣智不空奉
 詔譯

金剛頂經瑜伽有十萬偈十八會初會名一切如來
 眞實攝教王有四大品一名金剛界二名降三世三
 名遍調伏四名一切義成就表四智印於初品中有六男
 荼羅所謂金剛界大男荼羅并說毗盧遮那佛受用
 身以五相現成等正覺五相所謂通達本心脩菩提心成金剛心
證金剛身佛身圓滿此則五智通達
 成佛後以金剛三摩地現發生三十七智廣說男荼羅
 儀則為弟子受速證菩薩地法
 第二說陀羅尼男荼羅具三十七此中聖衆皆住波羅
 蜜形廣說入男荼羅儀軌為弟子受四種眼說敬愛
 鈎召降息災等儀軌
 第三說微細金剛男荼羅亦具三十七聖衆於金
 剛杵中盡各持定印廣說入男荼羅儀軌為弟
 子令心堪任令心調柔令心自在說微細金剛三
 摩地修四靜慮法修四無量心及三解脫門
 第四說一切如來廣大供養羯磨男荼羅亦具
 三十七彼中聖衆各持本標幟供養而住廣

原寸大

三十帖策子

さんじゅうじょうさつし
 国宝 三十帖冊子 三十帖
 延暦二十三年大同元年(八〇四—八〇六)
 紙本
 各帖 縦12.8 横14.1 15.8 18.7 cm
 仁和寺 京都府



書家 空 田村 誠次

空海が在唐中(八〇四—八〇六)書写した密教の經典や儀軌(きぎ)・規則(法度)・梵文(ぼんぶん)・古代インドの文字である梵字で綴った文章)等を帰国の途に就く一年半余りの間に書き写した密教習得を伝える記録であり、空海が隨身秘蔵していたもので、真言宗では最も尊重されて来たものである。各帖はもと三十八帖あったとされるが現存する「三十帖策子」は我が国最古の冊子本(さつしほん)である。
 (※「策子」は「冊子」のこと)



この三十帖冊子の各帖は二つ折りした紙の折り目近くを糊で張り合わせる粘葉装(でつちようそ)の冊子本であり、厚手の紙と薄手の紙が混じり合った箇所あれば、大きい紙と小さい紙を組み合わせたものもある。紙が乏しい時代であったため、いろいろな紙を用いた紙の裏表に書いた部分もある。そのような状況のもと、そこに書かれた文字はまことに小さい。

空海将来の経論(お経について論じたもの)・儀軌・真言としては、別到大同元年(八〇六)、巻子本に書写され、朝廷に献上したものである。「請求目録」(国宝)がある。この三十帖冊子は書かれた膨大な文字数からして、空海ひとりでは書得るものでなかった事は書風が多岐にわたって



「開」の拡大

その様にして書かれ、ときを経て今日に伝わって来た三十帖冊子であるが、その中から空海筆と思われる箇所を推定する作業はやつと明治以降になつてなされてきた。その結果は、空海筆と思われる箇所を書家の森田子龍が抄出した『三十帖策子抄』によつて目にする事が出来る。その中には空海と共に遣唐使船で唐に渡つた三筆の一人、橘逸勢(たちばなのはや

なり)の筆跡と思われる部分も併せて掲載されている。

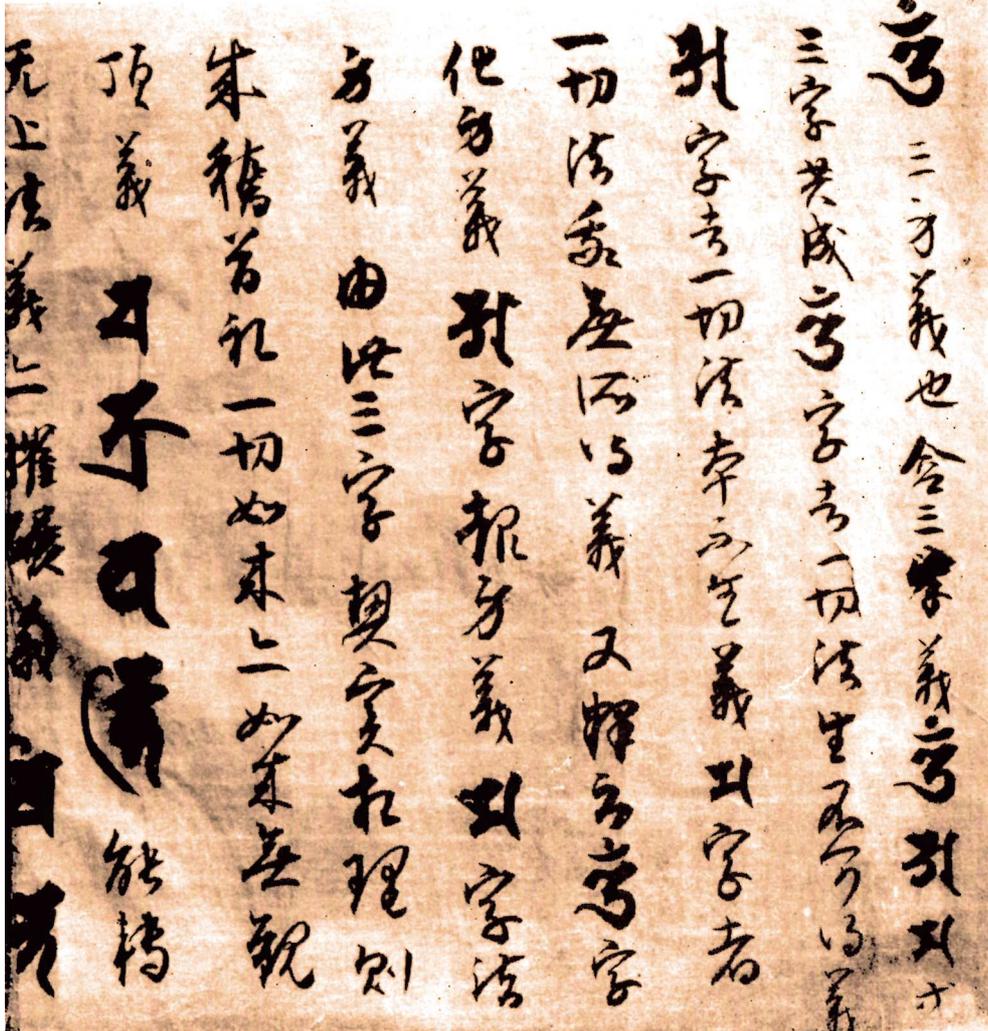
さて、その全文が小さい文字で書かれた『三十帖策子抄』の書体は、楷書から行書・草書を交えたものであるが、じっくり見ていくと、その中に興味深い箇所がある。ゆつくりとしたリズムで書き始めた空海であったが、途中から徐々に書く速度が速くなっている。空海といえども時間に追われる中、気が急いだのでは、と想像する。併せて人間空海の心の内を垣間見る思いが出来る事は感慨深い。この事は空海の肉筆



【開】 カイ・ひらく・ひらける・あく・あける

国宝 三十帖冊子 空海筆
平安時代 九世紀 京都 仁和寺蔵

原寸大



が今に残されたが故に味わえる訳だが、一般的に見ても歴史的な観点における肉筆の重要性を再認識させられる。

空海筆と思われるところは、一文字一文字が極小でありながらもその筆力は強く、それぞれの部分で書風を異にするが、その書をじっくり見ていると大師自身の息遣いさえ感じられ、その小さな一つ一つの文字の中に大師の偉大な人物が詰まっている思いがする。

小さな文字の一字ずつを目で追い、指でなぞつてゆくと若い大師の生き生きとした大きな世界がその書の中に感じ取れ、鮮やかに澄み切つて、まさに珠玉のような美しさを感じさせてくれる。

令和3(二〇二二)年 お寺の行事予定

★
猫

1月28日(木) 星供開白

2月3日(水) 星供結願

6月19日(土) 弘法大師降誕会
(参与会定例会)

7月 大般若御祈祷
本町北(5日) 本町南(6日)
伊勢(第2日曜日、11日)
大次郎(未定要相談)
森沢(土用入りの日19日)

8月 初盆お参り
15日(日) 仏送り

11月21日(日) 弘法大師御影供

12月31日(金) 納め護摩 午後10時〜
大晦日除夜の鐘

毎月 第2土曜(昼)写経
月2回水曜(夜)ご詠歌
※写経・ご詠歌休会中

守護御札について

ご本尊阿弥陀如来さまに
皆さまの家内安全、五穀
豊穰、息災延命等を祈願
した御札です。



○御札のまつり方

玄関(外でも中でも可)に、南向きか東向きに取り付けてください。家の中に魔が入り込むことを防いでくれます。押しピンではなく、テープを使用してください。何度も貼り直しが可能で、剥がした場所も傷まない、「マスキングテープ」をおススメ致します。取り付ける場所と御札に、お塩を振りかけてお清めしてから貼るとなおよいでしょう。

○古い御札について

御札の効果は一年間です。古くなったものは、ご参拝の節に、本堂前の「御札納め箱」にお納めください。お参りに伺うと、古い御札の上から、新しいものを貼る、「重ね貼り」を目にします。毎年、古い御札は剥がし、場所を清めてから新しい御札を取り付けてください。



ほしく 星供厄除祈願

受付します
1月20日締切

運勢の変わり目の節分に心身を一層清め、ひたすら皆さまの「息災延命」を祈る真言密教の秘法を星供(ほしく)といいます。

住職が1週間本堂に籠り、1日3座計21箇座の星供護摩を修し、誠心誠意、祈願致します。

詳細・申込は案内用紙をご覧くださいませ。



檀信徒の皆さまへ 護持会・初穂料 ご協力をお願い

『西光寺護持会』が発
足して以来、お寺の護持
営繕のために、檀信徒の
皆さまには毎年浄財を募
り、積立をさせていただ
いております。

檀家の皆さまには、護
持会費と初穂料の2種類
をお願いしております。

年末、世話人さまが各
家庭にご本尊さま守護の
お札を届けてくださりま
す。その際、世話人さま
を通じて護持会と初穂の
ご納入をお願いします。

世話人さま不在の地域
にお住いの場合、住職ま
でご相談くださいますよ
うお願い申し上げます。

お寺とお仏壇 について

檀信徒の皆さまの各お
仏壇の中には、西光寺の
ご本尊阿弥陀如来さま、
弘法大師さまがお座りに
なられ、皆さまの息災延
命、家門繁栄、如意円満
先祖代々増進仏果などを
ご加護頂いております。
つまりお仏壇は菩提寺の
西光寺そのものです。

本堂にご鎮座なさるご
本尊阿弥陀如来さまは檀
信徒の皆さまを導き下
さるお師匠さまです。ご
本尊諸仏が最大限におは
たらきくださりますよう
西光寺の護持営繕にご協
力賜われますよう、心よ
りお願い申し上げます。



護持会費の 使用目的

護持会費は、主に境内
及び本堂等の建築物の護
持・営繕のため、また12
年に1度の大法事及び涅槃
法要のために使用させ
ていただいております。
本堂は築360年、山門は
築180年を超え老朽化が進
んでおり、将来の為に積
立をさせていただいてお
ります。 8千円/年

初穂料の 使用目的

初穂料は、ご本尊さま
と檀信徒の皆さまのご先
祖さまに対するお供え料
(線香、ろうそく、花、
仏飯、供物等)として使
用させていただいており
ます。 2千円/年

ご納入について

- 時期 毎年12月頃
 - 納入方法
 - ① 世話人さまに お渡しする
 - ② お寺に持参
 - ③ 現金書留
 - ④ 振込
 - 金額 1万円
- (護持会初穂の合計)

護持会会計報告

毎年、西光寺役員総会
(総代・世話人会)にお
いて会計報告を行ってお
ります。
護持会会計に関する疑
問等がございましたら、
地域の世話人さまへお問
い合わせいただくか、世
話人さまがおられない場
合、直接西光寺までお尋
ねいただきますようお願い
いたします。

皆さまのご理解とご協
力に、心より感謝申しあ
げます。

西光寺護持会



- ④振込先 本所
阿波町農業協同組合
・金融機関店舗番号 8296-101
・貯金種目 普通預金
・受取人 宗教法人西光寺
・口座番号 3993798

※阿波町農業協同組合が統廃合され
金融機関店舗番号が変更となりました
旧8296-104 ⇒ 新8296-101
口座番号に変更はありません

仏壇・仏具・神具・墓石・石材工事

ぶつだんのもり

お問合わせ、ご注文は
☎(0883)36-1115
■〒771-1155 徳島市応神町
西貞方字仁徳48-1 (応神店)



メガネ・補聴器・宝石・時計

ジュエリー サトウ

あなたの快適ライフを応援します。
阿波町大原11-1
☎(0883)35-2306



料理

魚安

営業日/ 月～日曜日
定休日/ 火曜日
営業時間/ 夜.17:00～
阿波町庚申原121
☎(0883)35-7260

各宗派葬儀・御法要・花環・箆盛等

セレモニーはやし

阿波町丸山3-2
☎ (0883)35-2073
FAX (0883) 35-2736

セレモニーホール

マルミヤ

(会館葬儀・自宅葬儀・寝台車・花輪)
市場町山野上字大西181-1
☎ (0883)36-7111
FAX (0883) 36-7035

広告募集中

『寺だより紫雲閣』
に広告掲載して
みませんか?
一樹のかげの雨宿り…
の如く仏さまのご縁を
頂けるかも知れません。(年2回程度500部発行)




ロープウェイでらくらく参拝

四国八十八カ所21番 太龍寺
四国八十八カ所66番 雲辺寺
こんぴら奥の院 箸蔵寺
四国八十八カ所85番 八栗寺



編集後記

「お寺は住職のもの」ではなく、あくまでも住職はご本尊さまのお給仕役です。「お寺は檀家の皆さま共有の存在」であり、檀家の皆さまの代表の方が、総代世話人の皆さまです。西光寺は、代々素晴らしいお人柄の檀家の皆さまに護持されてきており、過去現在未来へと、タスキを繋いでくださっております。本当に有難いことです。心から幸せに感じております。

寺だより紫雲閣について

お寺と檀信徒の皆さまを結ぶお寺だよりです。ご本尊のお徳とお大師さまのみ教えに触れていただきたく、住職が心を込めて手作りしております。

後継者の方が遠方におられる場合、2通目の郵送もさせていただきまます。ご希望の方は、住職までお気軽にお知らせくださいませ。

12月31日大みそか

午後10時より

先、本尊護摩供

ご本尊を迎えた護摩の炎に
来たる年の幸せを祈ります

次、仏さまカード

新年の指針を仏さまのメッセージ
としてお一人ずつ授かります

次、除夜の鐘

百八つの鐘を世に響かせて
誰もが持つ仏心を共鳴させます

※仏さまのご加護が
ありましようが、
時勢を踏まえ各々の
責任と判断をもって
ご参加下さいませ。

